



国際交流員がコーディネーターとなり、
伝統行事等を通じて多文化共生社会を促進！

—— 愛媛県西条市観光振興課国際交流推進室

はじめに（愛媛県西条市の紹介）

愛媛県西条市は愛媛県東部に位置し、南は西日本最高峰の「石鎚山」、北は瀬戸内海に囲まれています。気候は温暖で、良質な自噴水「うちぬぎ」に代表される豊かな自然環境と、由緒ある寺や名湯といった魅力的な観光資源に恵まれています。また、日本一の生産量を誇る「はだか麦」や「あたご柿」、「春の七草」など、多種多様な農作物の一大産地であるとともに、四国最大規模の工業地帯となっています。

西条市では、近年の国際化社会における多文化共生の推進を図るため、1993年に県内で最初に国際交流員(CIR)を招致しました。現在、アメリカ合衆国から第10代目となるダイアナ・マリー・リントンさんと、ベトナム社会主義共和国から第2代目となるグエン・ブイ・アン・ティさんの2人がCIRとして在籍しており、本市と海外を結ぶ懸け橋として、また、本市の多文化共生のキーマンとして重要な役割を担っています。



ハロウィンパーティーで大活躍のCIR
(右がダイアナ・マリー・リントンさん、左がグエン・ブイ・アン・ティさん)

「豪華絢爛 西条まつり (Saijo Matsuri)」 を通じて多文化共生社会を推進！

観光資源の1つとしてあげられる西条まつりは、江戸時代から続く伝統的な秋祭りで、10月上旬から中旬にかけて市内各地で開催されています。五穀豊穡を神に感謝する神事で約150台の山車=屋台(だんじり、みこし、太鼓台)が奉納され、その数は日本一ともいわれており、海外からも多くの観光客が訪れています。ダイアナさんは着任1年目の2016年から市民として西条まつりに参加しています。屋台運行では地域の人々と「ヨイトサー！ヨイヤサー！」の声をかけて、700kgを超えるだんじりを一緒に担いでいます。



西条まつりで市民交流を深めるダイアナさん

全国のさまざまな地域で留学経験のあるダイアナさんの話では、愛媛県、特に本市を含む県東部のまつり文化は独特で、コミュニティが集まり、まつりへの参加を通して生きる喜びを分かち合うことができるということです。

西条まつりは、在留外国人が地域社会の一員として共に生きていくため、また融和や一体感の醸成のコンテンツとして重要な役割も果たしています。ダイアナさんは

自ら積極的に西条まつりに参加することで、外国人住民と地域住民の垣根を無くし、国際理解の推進を図っています。

なお、この様子はテレビ東京「YOUは何しに日本へ？」で放映され、日本全土に広く情報発信されました。

インバウンド誘客にも大活躍の CIR

西条まつり以外にも松平家ゆかりの城下町の風情を残す「旧西条藩陣屋跡」や、西日本最高峰の霊峰石鎚山を御神体山とする石鎚神社などの神社・仏閣、そして四国八十八か所六十番から六十四番札所までの五霊場が続く遍路道など、歴史に触れることのできる名所や旧跡などの観光資源が多数存在しています。ダイアナさんも地域の人々と一緒に石鎚山の祭礼「お山開き（毎年7月1日から10日開催）」や四国八十八か所巡礼などを体験しました。その経験を生かし、観光促進や地域経済の活性化を担う第三セクター「株式会社ソラヤマいしづち」の製作する「ISHIZUCHI JOURNEY ブランドブックおよびブランドムービー」の編集に外国人目線で参画し、魅力的なプロモーションツールの開発に携わっています。このプロモーションツールは愛媛広告賞最優秀賞を受賞するなど、非常に高い評価を得ています。

ダイアナさんは、域内の観光産業に携わる人々が互いに連携し合い、協力体制を構築していることや、域外からの観光客に対して、地域の人々との触れ合いによる感動的な体験を提供できることも魅力の1つとして挙げています。



「お山開き」に地域住民と一緒に参加するダイアナさん

3 姉妹都市との交流の懸け橋の役割

西条市は1994年に中華人民共和国の保定市、2018年にベトナム社会主義共和国のフエ市、そして2019年

にオーストリア共和国のセーボーデン市と友好都市提携を締結しています。2人のCIRは、友好都市との相互交流の際に市長や職員に随行して通訳を行うなど、本市の国際交流の発展に重要な役割を担っています。



セーボーデン市のクリナー市長と撮影

在留外国人と市民との多文化共生

今日、さまざまな国や地域から外国籍の方が来日し、職場や地域などにおいて共に生活する機会が増えているため、日本の将来を見据え、在留外国人と地域の人々が互いに異文化を理解し、また人権を尊重し合って、共生できる社会づくりを構築していく必要があります。「このコーディネーターを担うのがCIRである」とダイアナさんは強調し、異文化理解講座の中で、アメリカの移民に関する差別や人権問題について他国の文化も交えながら意見交換を行うなど、さまざまな国の文化を市民に紹介しています。また同様に、アン・ティさんも本市に住んでいる在留ベトナム人が地域の人々と触れ合う場を提供し、両者をつなぐコーディネーターおよび情報発信役として活躍しています。

CIRはその高い日本語能力により、仕事上だけではなく、地域社会の一員としてさまざまな人とコミュニケーションを図っており、これまで外国人と接触する機会がなかった地域住民に生の異文化体験を提供し、外国人は異質で理解しがたいという固定観念を解消させ、結果、地域住民の国際理解と国際感覚が増進しています。

現在、西条市には1,500人を超える在留外国人が住んでおり、「在留外国人と市民との多文化共生」について、積極的に対応していかなければならない時期となっています。2人のように、日本人と異なる文化背景や考え方をを持ったCIRが行政のスタッフの一員として在留外国人と市民のコーディネートに携わることは、更なる多文化共生社会を推進していくうえで非常に重要であると考えています。